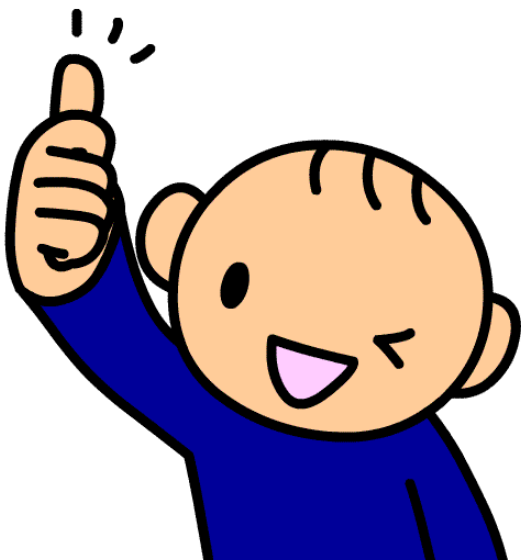




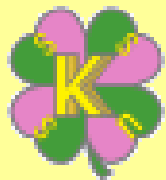
魔法のプロジェクト2016～九州セミナー～

# 肢体不自由児の「伝えたい」を支えるコミュニケーションの支援



北九州市立小倉総合特別支援学校

城野 真妃

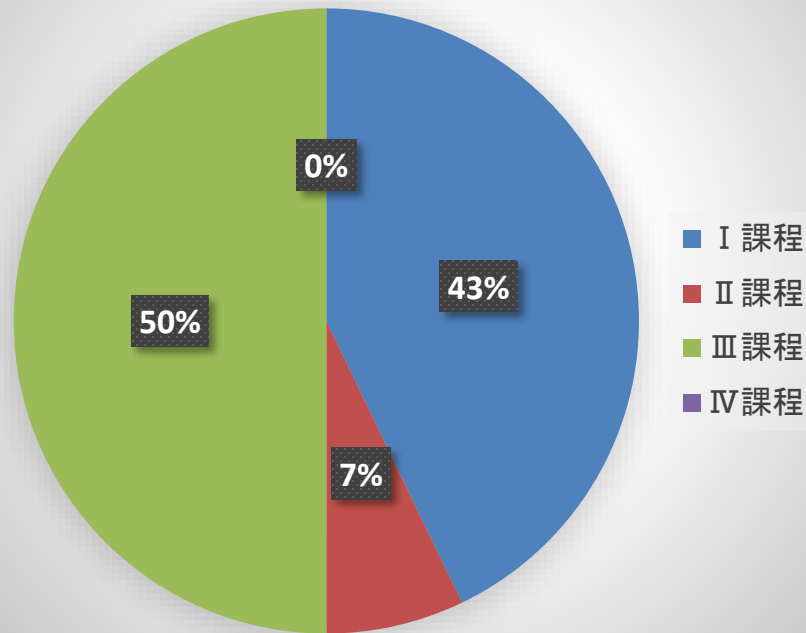


# 北九州市立小倉総合特別支援学校

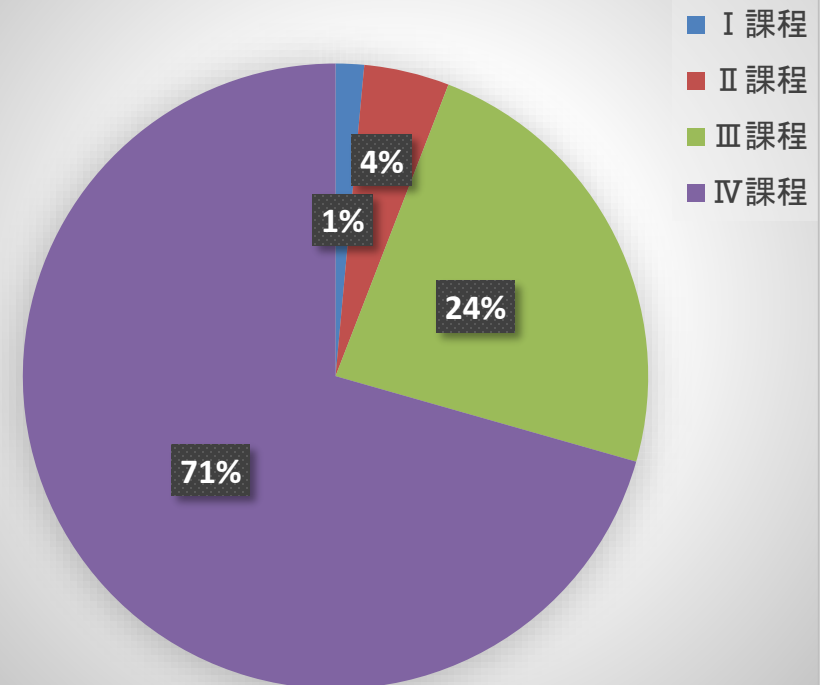


# 教育課程

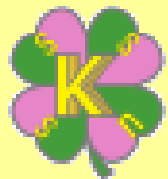
## 病弱



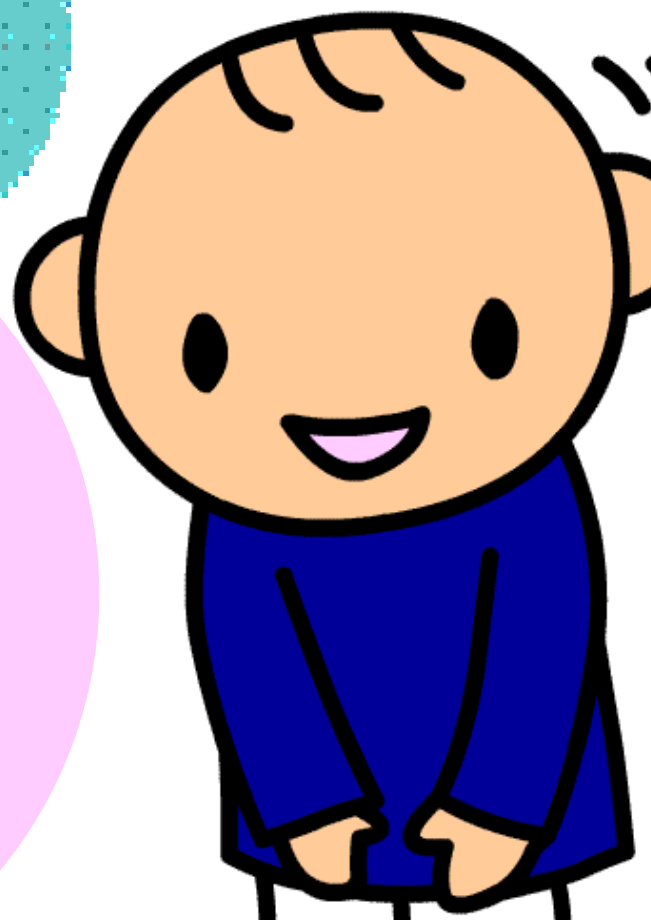
## 肢体



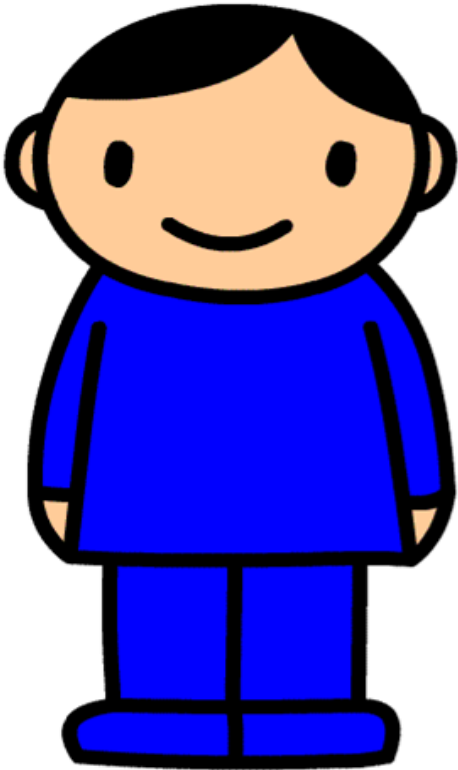
- I 課程：普通校の各教科等を中心とした教育課程※準ずる  
II 課程：普通校の下学年の各教科等を中心とした教育課程※下学年代替  
III 課程：知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科を中心とした教育課程※知的代替  
IV 課程：自立活動を主として指導する教育課程※自立活動を主



# 北九州市立小倉総合特別支援学校



## 対象児 Yくん



- 肢体不自由
- 小学部1年生 男児
- 発語が多い。(2～3語文)
- 人や言葉に対して積極的。



のてあすけりる  
きよらがふてい  
かきかいたて



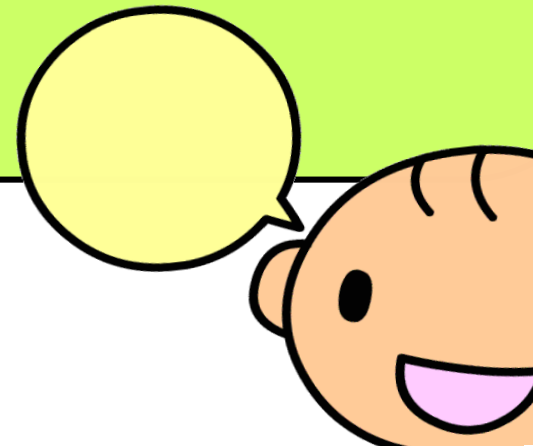






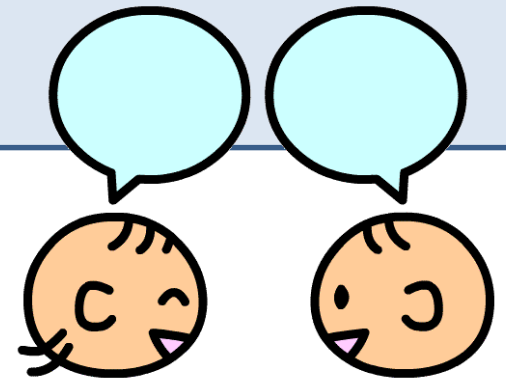
# Yくんの特徴

- ・ 発語は多いが、模倣であることが多い。
- ・ 場面におけるパターン（定型）を表出することが得意。
- ・ 自分の意思を言葉で伝えることは難しい。
- ・ 慣れた人でないと、Yくんの言葉の聞き取りは難しい。



# どうする？

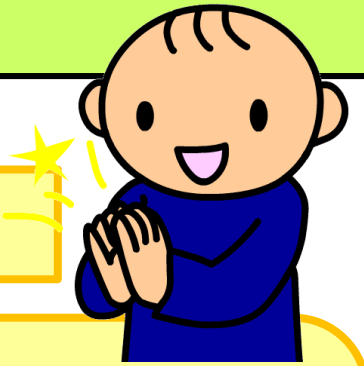
1. 単語の意味理解の確認（ことばの実態把握）
2. Yくんが意思を表出しやすいようにする。
3. Yくんの経験や気持ちを教師がモデルとして語り共有する。



# 1. ことばの実態把握

①言葉を自分のものとして使えるようになるまでに時間はかかるが、ごく身近な人や物の名前は理解して伝えることができる。

自分で想起して伝えることができることば



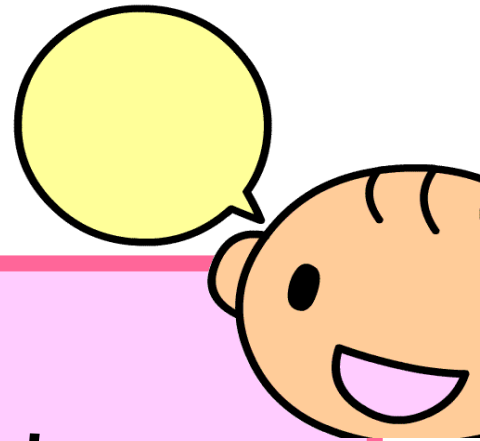
お茶、かばん、トイレ、お父さん、お母さん  
(家族)、友だち(2名)、先生(4~5名)  
拍手、給食、・・・などなど

# 1. ことばの実態把握

②模倣している言葉が文脈に合わせて使えるようになってくる。

例えば…

「今日も頑張ります。」  
「先生、今日はかわいいですね。」  
「モテるのも大事！！」  
「も～悪すぎる！」



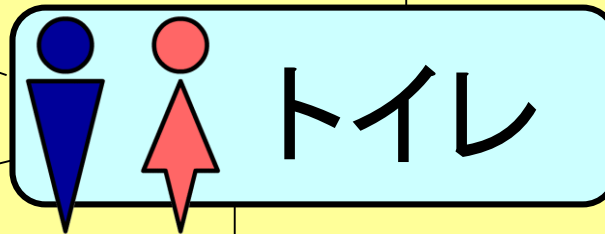
# 1. ことばの実態把握

③ キーワードを中心に言葉が広がっている。

トイレでおしっこができました。

(トイレ) 行く

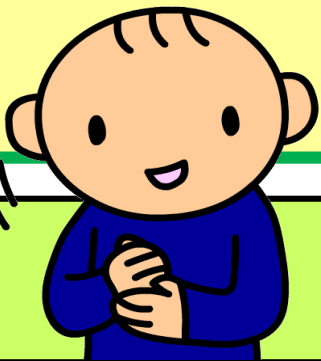
行かん



でらん

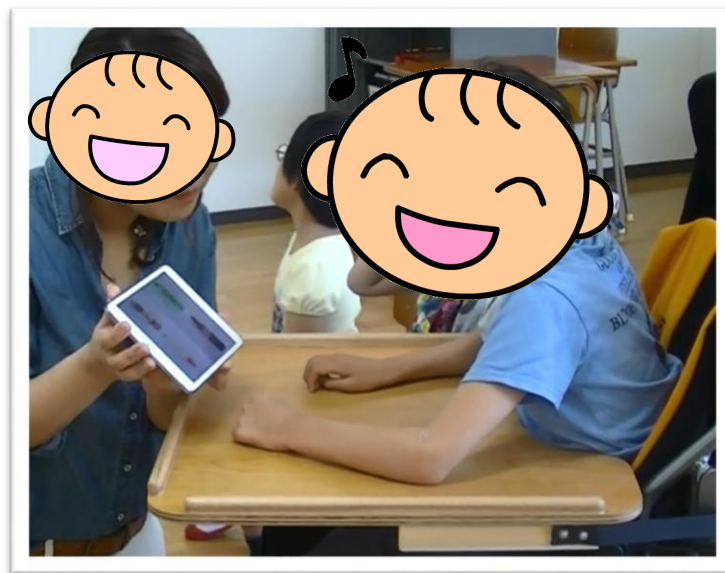
でた

家で巨大なうんちができました



実体験を伴ってことばが広がっている!!

## 2. 自分の意思の表出ができるように



- ・ 友だちをモデルにしながらか選択ができるようになった。
- ・ 具体物の選択から、写真での選択が可能に。

「どっちがいい？」



「どっちがいい？」

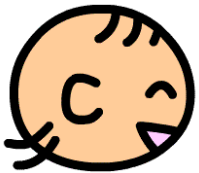




### 3. 教師がモデルとして語り共有する

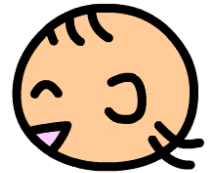
教師の言葉を使いながら伝える姿が見られる。

例えば . . .



毛布ブランコ、ゆらゆらして楽しかったね。

徳本先生に会えて嬉しかったね。  
また、ギター演奏聞きたいですね。



教師の言葉を使いながら伝える姿



# 模倣ではなくて・・・

お馬さん、お馬さんが・・・

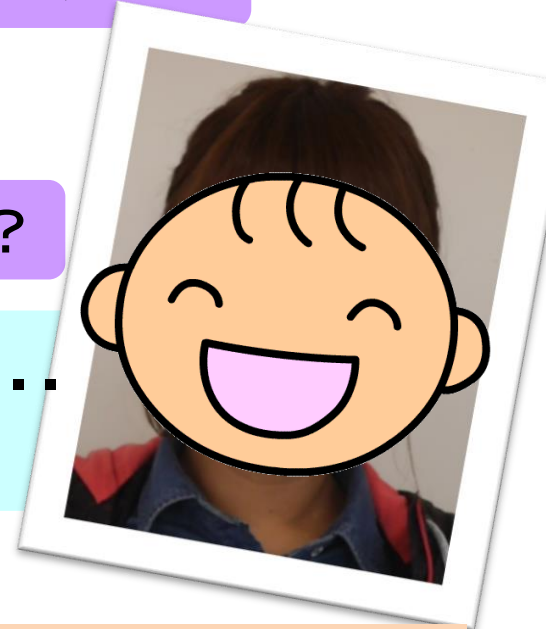
動物園に行ったんですか？

お馬さんが、馬。うま。ウマ……

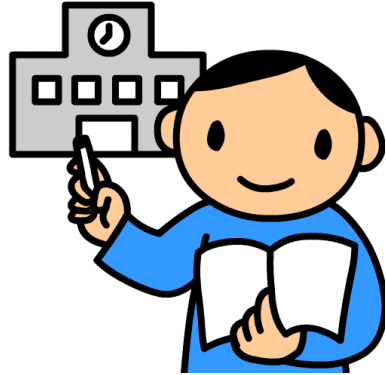
??…うま??

あのですね、あの、だから、え～っと……  
連絡帳。

乗馬体験をしたことを伝えたかったけれど、具体的に伝わらなかった。

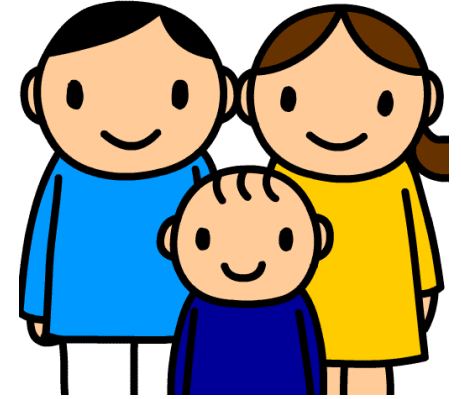


連絡帳読む



連絡帳書かないけんね

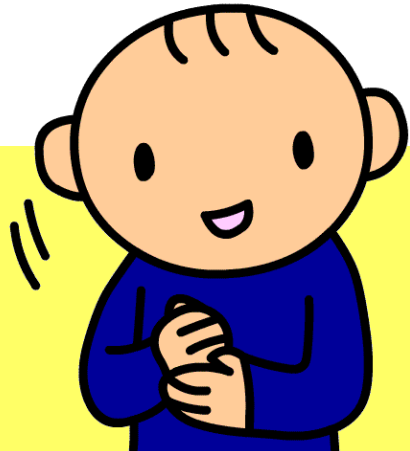
連絡帳



連絡帳を出す

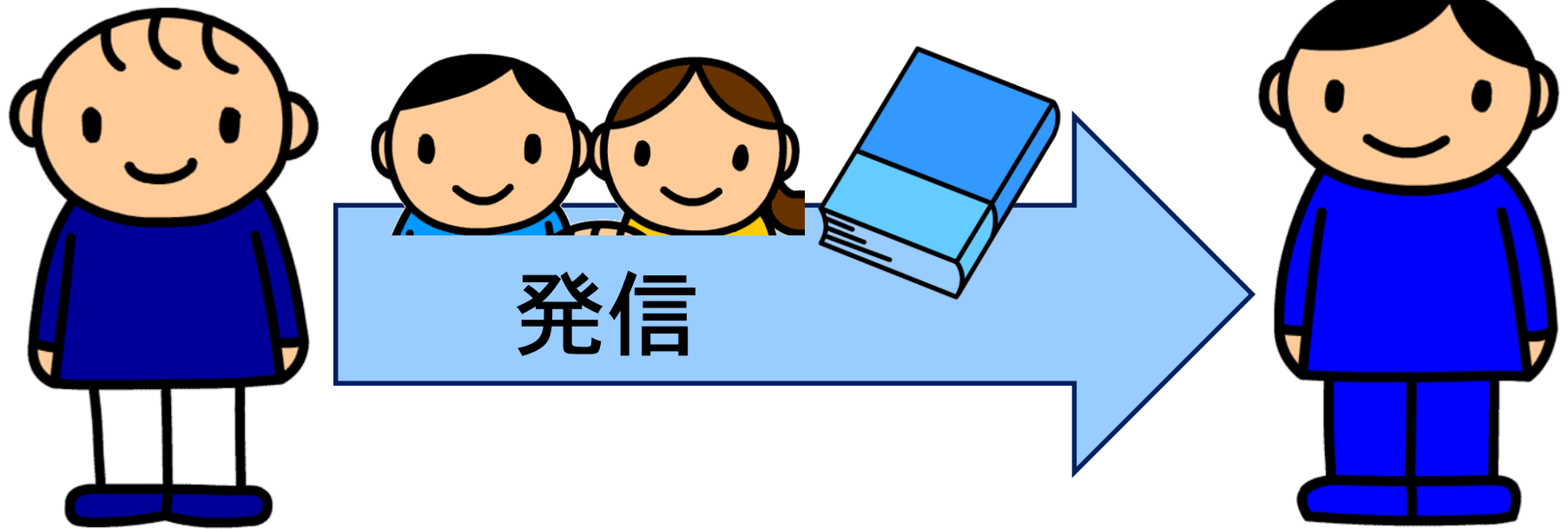
連絡帳書いた？

連絡帳を読んでもらうことで、伝えたいことがある程度伝わることを知っている...



# Yくんはどうやって伝える？

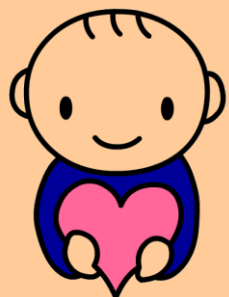
伝わらない時は連絡帳を使って…



連絡帳では伝わらない時は、黙る、諦めて話しをやめる、「あのさ」を繰り返している。

# もっといろいろな場面でも伝えるには？

発音が不明瞭で言葉だけでは伝わりにくい面もあるYくん



Yくんの「伝えたい」ややりとりを支えてくれるものとなるのでは!?

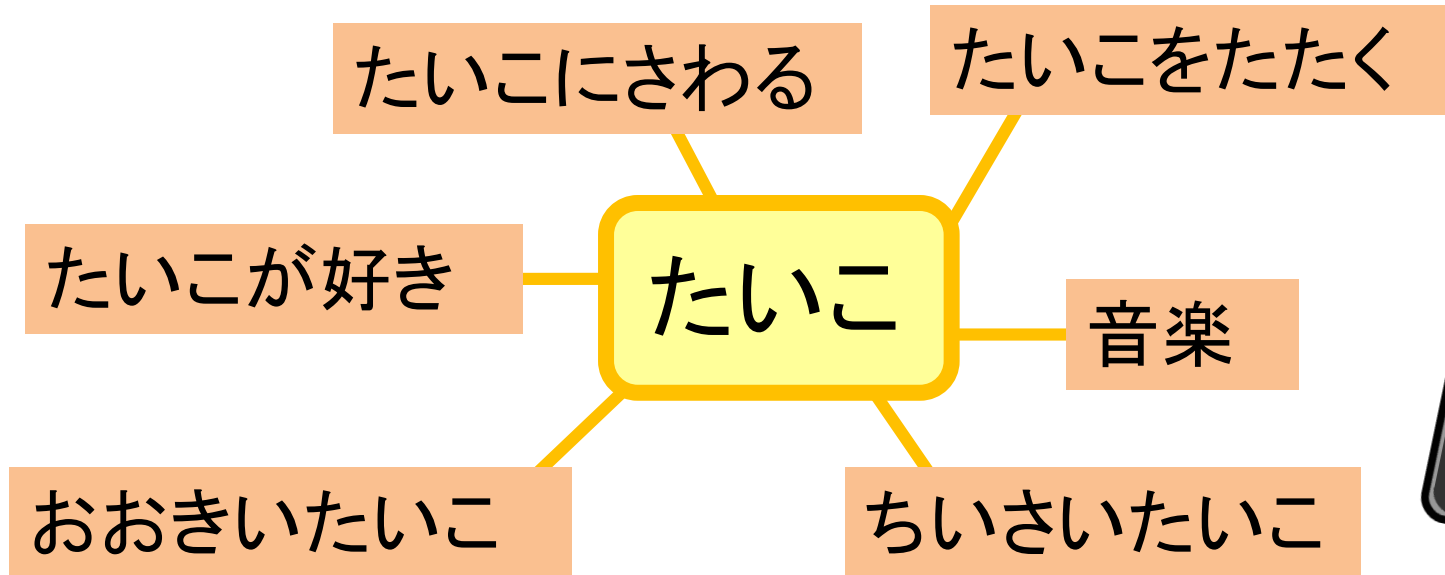
# これからの課題

- 伝えるための言葉を増やそう。
- 模倣上手を生かして、会話のやりとりができるようになるろう。
- 自分で伝えられる方法を増やそう。



# 言葉を増やすには？

中心となる単語を決め、それを実際に操作しながら言葉の学習をする。

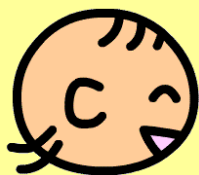


それぞれの操作をしている場面と言葉を保存し、いつでも見られるように。



# 模倣を生かしたやりとりとは？

やりとりのパターンをたくさん経験する。  
質問した側と受け手を交代しながら。

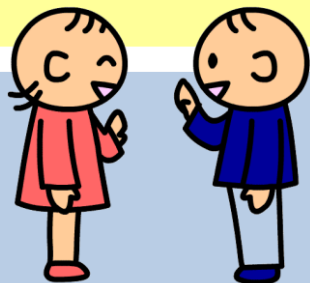


Yくん、今日の給食はどれが好きですか？

ぼくは、うどんが大好きです。



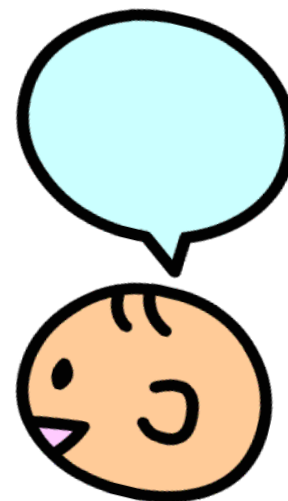
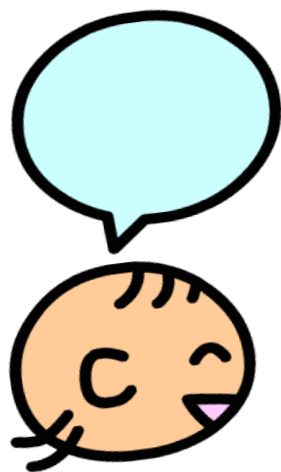
写真の中から答えを選ぶことのできるやりとりを設定する。



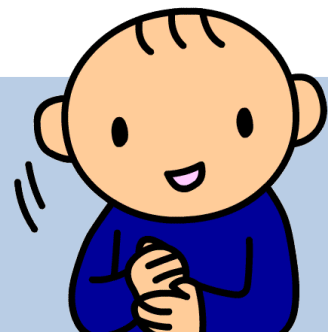
だれとでもやりとりができるように。

# 自分で伝える方法として…

週末に経験したことを教師に伝えられるように、写真や動画を撮ってきてもらう。



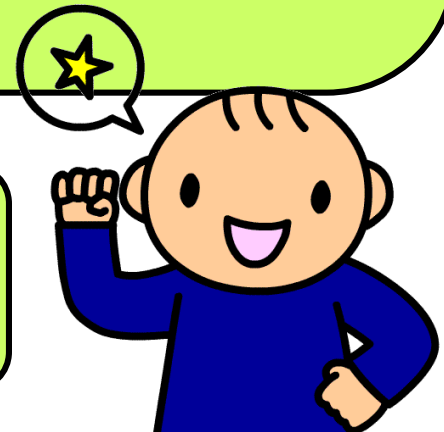
語彙やパターンだけではなく、目に見えるものを使いながら自分で伝える。



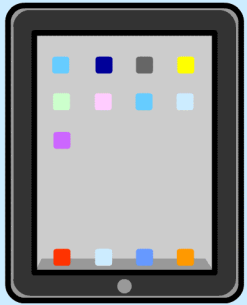
# これまでの成果

- Yさんのコミュニケーションについての実態が分かってきた。
  - ・ キーワードを中心にして、実体験を伴うことで言葉を獲得している。
  - ・ 選んで伝えることができるようになりつつある。
  - ・ 大人の模倣をしているが、自分なりに言葉をアレンジして伝えようとする姿が見られる。

- 周囲のかかわり方が変わってきた。



# これからの課題



音声と動画で言葉を学習するツールに・・・  
言葉が思い出せない時、辞書代わりに使える  
ツールに・・・  
なかなか自分の言葉で伝わらないときのコ  
ミュニケーションブックに・・・

そのためには・・・

Yくんが自分でiPadを操作できる

環境を整える。





ご静聴ありがとうございました。